

メリハリのある大胆な空間構成が生む 都市で圧倒的な 開放感を得る住まい

近隣の住宅が間近に迫る都市住宅で課題になるのが、プライバシーを守りながら明るく伸びやかな空間を演出するかということ。ハウゼが設計を手がけたO邸は、近隣の窓の位置や採光に配慮しつつ、空間のボリュームのメリハリに着目し圧倒的な開放感を実現しました。

撮影/山本育憲 スタイル(小物)/モダンリビング
グリーンコーディネイト/LOVE GREEN フラワーアレンジ/坂本ひろこ(アルドアーズ)

1 天井の高い伸びやかな空間にゆったりと6人掛けのダイニングセットを配置。このゆとりが心地よさにつながる。斜めの天井と壁の切り返しによる影が空間に深みを与える。窓際には書斎コーナーが。2 傾斜した屋根の素材の異なる2つのボリュームが前後に重なる外観。重なり的小口部分に門扉がある。3 中庭のシンボルツリーに視線が抜けるリビング。L字のソファはアルフレックスのもの。カップ&ソーサー¥14,000 ポット¥43,200(2点共リビング・モティーフ) テレビボード上の白い大理石のランプ¥540,000(日本フロス)



ダイニングキッチン全景。コーナーに配したエントランスと同じ大理石が空間のアクセントになり、ラグジュアリー感も増す。左奥にリビングがある。スーププレート各¥16,000 ワイングラス各¥2,000 プレート¥16,000 壁の黒いベース(上)¥16,000(下)¥14,000 フォトフレーム(右から)¥7,600 ¥10,000 ¥4,200(すべてリビング・モティーフ) フロアランプ¥170,000(日本フロス)

図面だけではわかりにくい 空間構成のセンス

平面図や模型、CGだけでは住み手が想像しにくくとも、実際に新居での暮らしがスタートしてから実感できる家の魅力があります。それは主に空間を移動するときの各スペースの展開と光を含めた空間のボリューム感。ハウゼが設計&施工を手がけたO邸は、まさに住み始めてから本当の素晴らしさを感じられた事例といえます。

まず、住宅がひしめく街並みに堂々と佇むモダンな外観。ここからこの家の魅力が始まります。アイアンの門扉をくぐり、大きな玄関扉を開けるとそこに広がるのは

吹き抜けの玄関ホール。空間に立ち入ったときに現れる第一歩が空間全体の印象に大きく作用するのです。ここでは大理石を壁の一部に縦長に張り、天井の高さとラグジュアリー感を象徴的に表現しています。そこからLDKのある2階へ。玄関ホールの吹き抜けを右手に廊下を曲がると目の前に広がるのはダイニングキッチン。白を基調とし、天井高は最高で5mほど。ハイサイドライトにより、視線が上方へと導かれます。重厚なエントランスとのギャップが、開放感をより強調しています。ダイニングとリビングとの間にあって天井高を抑えた10畳ほどの空間が、この室名のない余白がリビングならではのコージーな心地よさを生み出しています。

ハウゼの家づくりには、わかりやすい表層的な特徴はありません。体感でしか理解できない、空間構成に対する絶対的なセンスをもっていること。これがハウゼの魅力といえます。そして細部に至るまでいねいなつくり。その積み重ねが、家の質の高さにつながることをこの家は実証しています。

お問い合わせ●ハウゼ ☎045-910-5000 <http://www.houze.co.jp/>

大胆な吹き抜けのエントランスホール。奥の坪庭へと視線が抜ける。ミラーを張った引き戸の裏に、収納とシューズクロークがある。

